CLF REPORT

同志社大学
学習支援・教育開発センター レポート

Center for Learning support and Faculty development report

2016.3
vol.24

CONTENTS

01 P2-P4
各部会活動報告
•FD支援部会
•大学院教育検討部会
•学習支援検討部会

02 P5-P7
開催報告
•教育方法・教材開発成果報告会
ラーニング・コモンズ運営状況
•エリア別利用状況
•学習相談
•コモンズカフェ

03 P8-P10
各学部・研究科・センターFD活動報告
学外FD企画参加記
2016年度 教育方法・教材開発費 採択テーマ
FD関連企画のご案内

04 P11-P12
2015年度「大学入学準備講座」開催報告
センター事務室からのお知らせ
BOOKS 新着図書情報
Column 大学教育の今

各部会活動報告

FD 支援部会

FD支援部会長　山田 礼子

2015年度のＦＤ支援部会の事業計画には、①アンケート調査の実施と調査結果の利用促進、調査方法の検討、②「大学入学準備講座」の企画、③ＦＤに関する意識高揚活動の実施、④ＦＤ講演会・ワークショップの開催、⑤ＦＤハンドブックの充実、⑥その他（検討を必要とする各種課題）の６項目を掲げました。

①「アンケート調査の実施と調査結果の利用促進、調査方法の検討」について、まず、WEBによるアンケートを実施した場合でも、調査票（用紙）での実施同様に、事務局から一括してデータ（ログ）を提供できるようにしました。それぞれの所属における授業科目の学生による評価の傾向を知る目安として、「組織的な授業改善策の検討」や「組織的な内部質保証を推進」、「担当者ごとの授業改善」のための利用が期待されます。また、学内の各種調査やアンケート結果が、学生の学習成果アセスメントにつながるものであることをアピールし、学生や関係部署の意識高揚を図るためのリーフレットを作成しました。さらに、事務局より調査票及びWEBの実施データ（CSV）を元にした分析モデルを提示し、各学部で分析する際の視点もお示ししています。

②「『大学入学準備講座』の企画」については、受講者数も例年並みで推移し、恒常的な行事として安定した運営ができています。過去講座については、本学ストリーミングシステムで配信しており、授業運営上の参考としても視聴していただければと考えています。今年度新たに作成した「大学入学準備講座」過年度一覧をまとめたリーフレットは、本学入学課をはじめ、広報課とも連携を図って、高校訪問等でも役立てています。

③「ＦＤに関する意識高揚活動の実施」については、高等教育界やＦＤ活動の最新動向で注目すべき事項について、メーリングリストや当センターＨＰ等で情報提供を行ってきました。CLF report（本誌）を年２回発行し、『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』を通じて、高等教育およびその関連領域に関する実践報告や活動報告、高等教育に関する学術的および実践的研究を促進することを目的とした研究論文と文献紹介の原稿を、本学教職員、嘱託教員、大学院生を対象として広く募りました。

④「ＦＤ講演会・ワークショップの開催」については、本学教職員を対象に、学習効果が期待できる授業の手法や技法、アイデアなどを出し合っていただき、情報共有・意見交換する機会として、「第２回授業デザイン研究会」を開催しました。参加者からの要望（授業における実践例などの情報交換ができ、大変参考になった、今後も続けてほしい。開催の回数を増やしてほしい、情報共有がタイムリーにできるようにしてほしい）にこたえるため、本学ポートフォリオシステムにコミュニティサイト：「授業デザイン研究会」を開設しました。本サイトでは、掲示板でのディスカッションや資料のアップロードなどの機能がご利用いただけます。また、３月末には、愛媛大学から中井俊樹教授（教育・学生支援機構教育企画室）を招き、「アクティブラーニングを授業に取り込む一実践の課題とIRとの接点」というテーマで、学内教職員を対象にした講演会を開催しました。

⑤「ＦＤハンドブックの充実」については、発行から５年が経とうとしている日本語版・英語版のそれぞれのハンドブックについて、掲載メニューの見直しや内容をブラッシュアップし、改訂版を発行しました。年度内を目処に、専任教職員に向けて配付し、新任教員研修会にも提供します。

⑥「その他（検討を必要とする各種課題）」については、大学院教育検討部会とも連携し、大学院科目についても、科目ナンバリングの付与作業を実施し、一部研究科を除き次年度から公開予定としています。また、「遠隔講義等の実施に係るマルチメディア教材作成支援制度」の見直しを行い、手続きと査定基準を明確化し、教育活動支援制度の一つとして、機動的な活用が期待されます。

最後に、次年度からは、新たに教学ＩＲを担う任期付教員１名（准教授）を配置の上、この教員を学部・研究科等との結節点とした教学改善の実践的な活動に入りたいと考えています。教学ＩＲは幅広い領域を含む活動であるため、本学特有の教学改善の重要課題、改善成果を測る指標、有効な改善手法を探るため、「授業評価アンケート」（2002～）や「キャンパスライフに関するアンケート調査」（2004～）等を企画・実施し、データ蓄積や分析方法の開発・検証を重ね、「学生の学習」に関わるデータをもつ関係部署とも連携し、分析できる体制を整えていきます。

以上において、本年度も委員の皆様からのご意見を頂戴し、事業計画を推進することができました。委員の先生方のご協力とご支援に感謝申し上げます。

FDハンドブック改訂のお知らせ

2011年度に発行した「同志社大学ＦＤハンドブック」を改訂しました。

授業運営に関わる基本事項に加え、本学教員によるユニークな授業の実践例や各種支援制度も掲載しています。本学の教職員にとって参考となる内容となっていますので、ぜひご活用ください。

学習支援・教育開発センターホームページでも公開しています。

ＦＤハンドブックのページ

http://clf.doshisha.ac.jp/handbook/handbook.html

アンケートリテラシー向上のためのリーフレット作成のお知らせ

「キャンパスライフに関するアンケート調査」等の本学学生を対象としたアンケート調査を実施するにあたって、新たな周知チャンネルとしてリーフレットを作成しました。このリーフレットを「キャンパスライフに関するアンケート調査」実施時に学生の手元に配付することで、１人１人の回答が大学運営に活かされていることを実感してもらい、調査への積極的参加を促したいと考えています。

過去の調査結果のダイジェストを見やすく掲載しています。

大学院教育検討部会

大学院教育検討部会長　久保 真人

2015年度の大学院教育検討部会では、①大学院共通基礎科目の全学的な展開の検討、②ＴＡ研修制度の検討、③大学院教育充実のための情報提供と意見交換、④その他（科目ナンバリングの導入検討等）の４点を事業計画として挙げました。

①「大学院共通基礎科目の全学的な展開の検討」については、当面の運用として、全学の研究科の院生が受講できる大学院共通科目的な位置づけの科目を特定の研究科で開講し、他研究科の院生にも受講可能とする他研究科履修方式によって単位互換を図っています。今年度は、総合政策科学研究科の開設科目である「政策研究特講ー学術論文執筆法ー」と「リサーチ・デザイン」の２科目が試行実施されており、次年度も開講される予定です。

今後の大学院共通科目の議論の方向性として、①研究倫理について、何か全学的な仕組みが考えられないかどうか、②大学院共通基礎科目について、研究科同士がコラボする場合、全学的な視野のもとで、どのような場（議論を促進するようなワーキンググループやベースとなる“箱”としての科目設置の仕組みなど）を設ければ、研究科同士のコラボが促進されるのかどうか、という点について、今後も議論していきます。

②「ＴＡ研修制度の検討」は、2013年度から任用が始まっているＬＡ向け研修プログラムとの連携を意識したＴＡ研修制度の改定をおこなっており、ＬＡ向け研修プログラムの一部をＴＡ向けに公開しています。また、次年度のＴＡ研修会ではＴＡ業務を行う大学院生のＴＡ研修会参加の実質化を後押しするものとしてＴＡ研修会参加者への受講証の発行について、試行的に実施し、その効果を確かめることにしており、また、ＴＡリーフレットの英語版を作成しました。また、今年度実施した「ＴＡ業務に関するアンケート調査（教員版・学生版）」の分析を進め、他大学におけるＴＡ研修制度の情報収集を行いながら、ＴＡ研修会とは別にランチミーティングなどテーマ別ミニ研修の実施についても、大学院共通基礎科目の展開等に絡めて検討していく予定です。

③「大学院教育充実のための情報提供と意見交換」については、各研究科における取組みの紹介や、文部科学省の施策、中央教育審議会大学院部会における議論の紹介等、大学院教育に関する情報提供を行ってきました。文部科学省では、リーディング大学院の後継事業として卓越大学院（仮称）の検討が開始されており、本部会でも情報収集を行ってきました。

④「その他（科目ナンバリングの導入検討等）」については、学部設置科目の公開に引き続き、大学院設置科目についても導入の検討を行いました。大学院科目ナンバリングの実施・運用方針、基本フォーマットを整備し、一部の研究科を除き、次年度から公開予定です。

ご多忙な中、部会運営にご協力いただいた委員各位並びに本学の関係各署に感謝申し上げます。

TA業務に関するアンケート調査について

ＴＡに対する研修プログラムやＴＡ制度の適切な運用のためのガイドラインの策定など、ＴＡ制度の改善に資するために、ＴＡ業務に関するアンケート調査を、教員と大学院生を対象に実施しました。教員版と大学院生版それぞれの回答集計結果を一部抜粋して紹介いたします。

教員版

【調査方法】Web上でのアンケート　【対象者】本学専任教員（798名）

【実施時期】2015年７月28日～９月30日　【回答数】250名（回答率：31.0%）

大学院生版

【調査方法】Web上でのアンケート　【対象者】本学大学院生（2,338名）

※全研究科（区分制博士課程、一貫制博士課程、専門職学位課程）在籍者

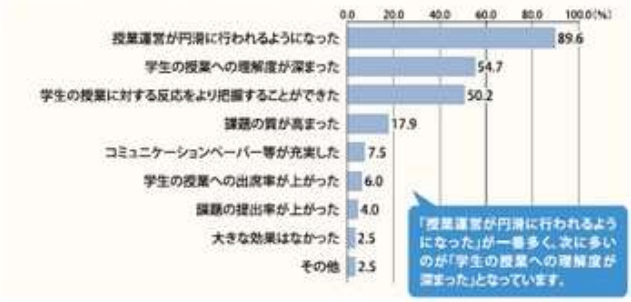
【実施時期】2016年１月22日～２月5日　【回答数】538名（回答率：22.5%）

201人=100.0%（TA活用者）

○現在行っているTAに課している業務の内容

「学生と教員との連絡仲介」が一番多く、次に多いのが、「授業準備（資料収集、教材作成補助、教材印刷・配付等）」となっています。

○TAを配置したことで、授業のどの点が改善されたと思いますか？



「授業運営が円滑に行われるようになった」が一番多く、次に多いのが「学生の授業への理解度が深まった」となっています。

ＴＡに対し、指導教員がどのような業務を指示、指導しているのか、授業におけるＴＡの役割などの現状把握ができました。

424人=100.0%（TA経験者）

○TAの役割について果たせたと思うもの

「学生に対する学習上の指導・相談」が6割以上と最も多く、「授業教材の準備」、「実験実習の指導あるいは補助と助言」、「演習の運営補助」と続いています。

○直近1年間のTA経験から学び、将来について役立つと思えること

「説明・説得スキルの向上」、「コミュニケーションスキルの向上」、「大学教育の実態に関する理解」、「授業運営・教育方法の習得」がそれぞれ５割前後と高い数値となっています。

一定数の大学院生（ＴＡ）が授業における「学生に対する学習上の指導・相談」業務を通して、「説明・説得スキルの向上」、「コミュニケーションスキルの向上」、「大学教育の実態に関する理解」、「授業運営・教育方法の習得」といったスキルが身についている様子がうかがえます。ＴＡ業務そのものがプレＦＤ的要素＝教育を学ぶための実地訓練（教育現場の体験）の意味合いがあることも確認できます。

学習支援検討部会

学習支援検討部会長　新関 三希代

2015年度の学習支援検討部会では、①学習環境と提供プログラムの効果測定、②学部教員との連携協同モデルの検討、③広報活動の強化、④2016年度以降の中期計画検討の４点を事業計画として掲げました。

①「学習環境と提供プログラムの効果測定」については、2014年度に実施した、LC利用の有無と利用頻度の状況と日頃の学習の変化を感じているか（間接評価）をたずねたアンケート調査結果のデータ分析から、LC利用の有無による学生の学習の変化の違いと、LC利用頻度による学生の学習の変化の違いを明らかにし、LCが学生の学びにどのような変化をもたらすのか、学習支援を考えるための材料としてきました。分析テーマとしては、(1)学年別利用傾向から、LCの各エリアを主に利用する学年にはどのような特徴があるのか、(2)利用頻度×利用時間から、頻度と学習の変化・身についた力、加えて、利用時間の項目からも補足し、(3)人的資源の活用実態や活用傾向、(4)各エリア活用の実態の４点についての分析を行い、プログラム効果測定の手法（アンケート評価、グループインタビュー等）を用いて得られたデータや情報も参考にしました。集計結果の分析をもとに、ラーニング・コモンズでの学習に関する包括的な効果についての調査に着手していきます。

②「学部教員（初年次教育担当者等）との連携協同モデルの検討」は、各学部におけるカリキュラムの実態、ラーニング・コモンズで期待される学習プログラムのニーズ等のヒアリング結果や初年次教育やゼミの展開状況などから、ラーニング・コモンズで展開する学習プログラムや学習相談が、各学部で展開している学習プログラムを支援し、専門ゼミに入る前段階の学習の隙間を埋めるような形で、学部教員と連携協同する具体的なモデルを構築・提案しました。連携モデルの事例として、正課授業への組み込み方という点から、商学部との事例を紹介してきました。今後も、授業と授業外学習との連携を深め、学生の学びがより深化するモデルを検討していくことにしています。

③「広報活動の強化」は、カリキュラムリサーチに基づいたアカデミックスキルセミナーの広報展開として、各学部で整備された科目ナンバリング表をもとに、各学部カリキュラム（履修要項やシラバス）をリサーチした結果と学内の各部課で展開されている各種セミナーやワークショップ、講習会などの各プログラムの開催状況をみながら、特にアカデミックスキルズに応用できるものなどとの連携を模索しました。広報活動の強化により、学習相談件数も、年々増えており、学習相談に関する利用案内カードを利用者に渡し、効率的な運用を心がけています。

④「2016年度以降の中期計画」は、学長から発信された2015年度に重点的に取り組む課題の一つである『京田辺ラーニング・コモンズの設置およびラーネッド記念図書館の整備』の検討と、今出川良心館ラーニング・コモンズについても、オープンから３年が経過しており、各種プログラムの効果測定や外部評価、学生の学習効果を測定していくフェーズに入ったため、2016年度以降の全学の学習環境の整備方針や学習施策の将来プラン、人的支援をはじめとする学習支援体制の方向性を検討してきました。

今後、学習支援・教育開発センターでは、「良心館ラーニング・コモンズの利用に関するアンケート調査」の集計データをもとに、京田辺のラーニング・コモンズの構築に向けたコンセプトやデザイン設計などにフィードバックできるよう役立てていきます。そのため、今後アンケートを実施の際は、その分析結果をPDCAサイクルの中で、新しい取組みにも役立てられる仕組みづくり（反映するメカニズムの構築）を意識していきます。

本年度も、部会運営にご協力いただいた委員各位並びに本学の関係各署に感謝申し上げます。

ラーニング・コモンズ（LC）利用タイプと構成割合

2014年度に学部学生に「良心館ラーニング・コモンズ（LC）の利用に関するアンケート調査」を実施しました（4,089名が回答）。

LCを「利用している」学生の利用の仕方を下記のように類型化してみました。半数近くが「個人＋小グループ」で利用しています（46.0%）。もちろん「小グループでの利用」（23.6%）、「個人での利用」（15.7%）の学生もいます。

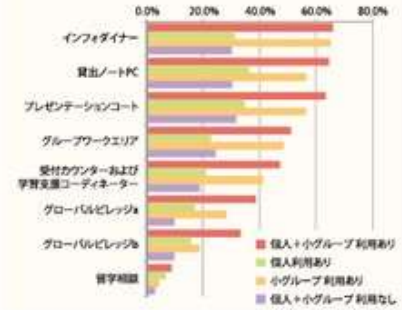
利用タイプごとに利用エリア、利用目的も異なります。これらの図から「個人＋小グループ」での利用タイプが最もLCを活用していることがわかります。

ラーニング・コモンズ（LC）利用タイプ

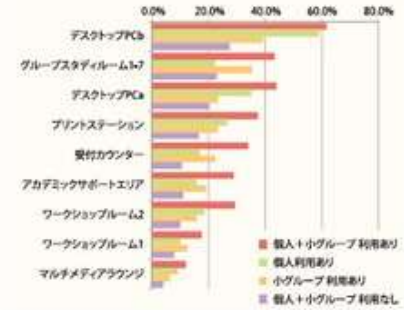
構成割合

利用タイプ別利用エリア

利用エリア　2階　「利用した」%

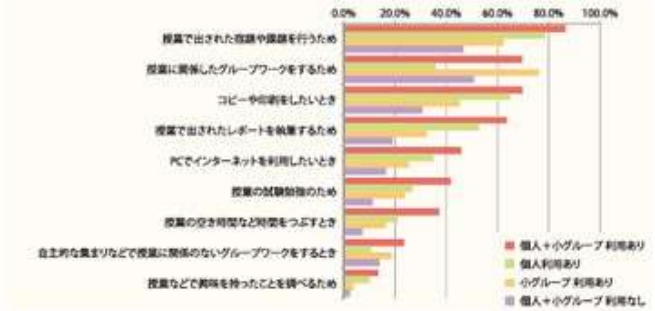


利用エリア　3階　「利用した」%



利用タイプ別利用目的

利用目的　「あてはまる」%



開催報告

教育方法・教材開発成果報告会

学習支援・教育開発センターが設置している教育活動支援制度の一つである「教育方法・教材開発費制度」(B区分)を利用して2014年度に取組まれた教育方法・教材開発についての成果報告会を実施しました。

テーマ 現代科学を学ぶ学生のための物理実験実習プログラムの開発
日時 12月1日(火) 12：40(2015年度第4回FD支援部会終了後)～13：05
会場 京田辺キャンパス 交隣館2階多目的ルーム
今出川キャンパス 寧静館5階会議室(テレビ会議システム利用)
発表者 吉川 研一 ／ 剣持 貴弘(本学生命医科学部 教授)
松浦 弘智 ／ 田中 智子 ／ 三木 真湖(本学生命医科学部 嘱託講師)

当日は取組担当者の先生方にお越し頂き、取組テーマ：「現代科学を学ぶ学生のための物理実験実習プログラムの開発」について、その教育的効果をご説明頂きました。

本取組は、考える学問としての物理学の面白さを実感できるプログラムの開発を目的として行われ、実験的な学習を通して授業で習った知識を自ら体験できる実験教材も開発されました。

教材(実験道具)の開発においては、あえて安価でオープンな仕様のコンピュータを用いて複雑にしないことで、学生が自ら工夫しながら学習できる余地を残すなど、知識の応用力を養いながら学問の面白さを実感できるよう工夫されていました。

実際に開発教材を導入した生命医科学部開講科目では、積極的に課題に立ち向かう受講学生の姿が見られるなど反応も良好であり、自発性を発揮できる実験学習は学生の創造力を引き出すのに効果的であることが分かりました。

本取組は、本学の理科教育に探索的な学習の特長をもたらす契機になるだけでなく、文系の学習においても実習等に応用できる部分があり、高い汎用性がうかがえるため、今後の発展が期待されます。

実験学習の様子

開発教材の一部

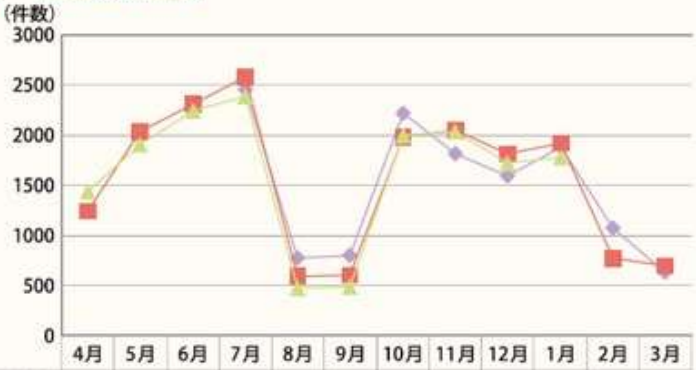
教育方法・教材開発費制度の詳細については、P.10をご参照ください。
2016年度の採択テーマも紹介しています。

ラーニング・コモンズ運営状況

エリア別利用状況

良心館２階のインフォダイナー、3階のグループスタディールームの各月の利用状況のデータをまとめたのが下のグラフです。インフォダイナー、グループスタディールームともに、春学期と秋学期の授業期間中（試験期間含む）に多く利用されていることがわかります。

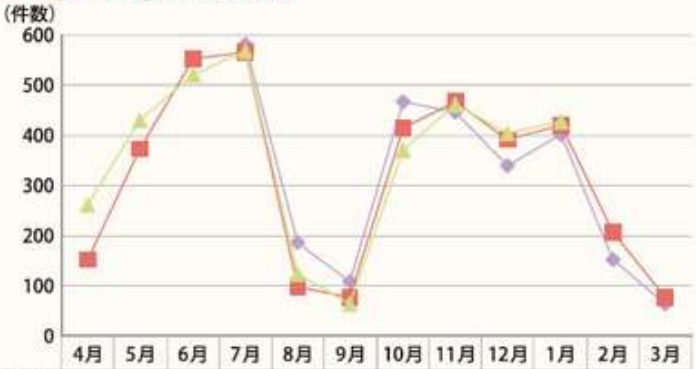
○2階　インフォダイナー利用状況（月合計）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年度				2452	771	805	2215	1818	1599	1877	1075	630
2014年度	1241	2042	2305	2589	585	610	1981	2051	1819	1917	767	699
2015年度	1440	1910	2240	2391	469	484	1994	2037	1726	1777		

インフォダイナーは全16エリアが予約対象　予約開始は、2013年7月以降

○3階　グループスタディールーム利用状況（月合計）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年度				582	185	107	467	446	339	402	153	64
2014年度	152	373	552	565	96	76	415	466	391	419	206	77
2015年度	261	430	522	568	124	63	370	463	405	427		

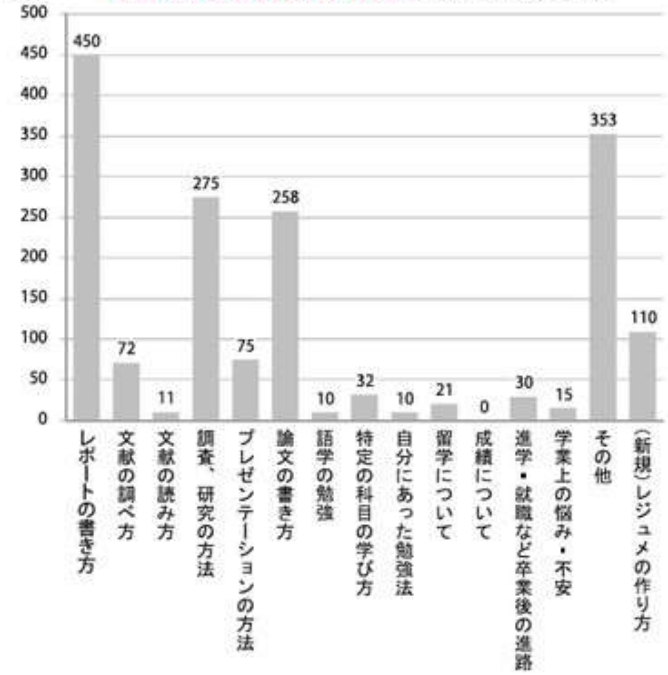
グループスタディールームは5部屋が予約対象　予約開始は、2013年7月以降

学習相談

良心館３階のアカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターやＬＡ（ラーニング・アシスタント）が学生の学習相談に乗っています。2015年度は2016年１月末時点で、相談者延べ1,500名、相談件数は1,722件あり、昨年度を上回る相談が寄せられています。「レポートの書き方」、「調査・研究の方法」、「論文の書き方」に関する質問が多くありました。

また、相談時には、学習相談に関する利用案内カードを配布しています（図参照）。アカデミックサポートエリアの学習相談のスタンスを記載しており、利用学生の皆さんからのご理解をいただいております。

学習相談の内訳 総件数1,722件（2015年４月～2016年１月）



学習相談に関する利用案内カード

コモンズカフェ

2015年度秋学期はコモンズカフェを３回（第14回、第15回、第16回）開催しました。2013年度より各学部の先生方をお招きし、これで学部一巡となりました（表参照）。今後も多くの先生方にご登壇いただく予定です。

回	氏名（敬称略）	学部	イベントタイトル	開催日
第１回	村田　晃嗣	法学部	伝えたい！同志社での学び	2013年11月７日
第２回	関谷　直人	神学部	あなたの知らなかったクリスマス	2013年12月11日
第３回	勝山　貴之	文学部	ミュージカルへの招待	2014年１月23日
第４回	百合野　正博	商学部	大学は知的ワンダーランド	2014年４月23日
第５回	浦坂　純子	社会学部	「計画された偶発性」をものにする～流されず、逆らわず、のキャリアデザイン指南～	2014年５月29日
第６回	馬場　吉弘	理工学部	グリーンエネルギー風力発電の可能性	2014年６月25日
第７回	錄　鵬	グローバル地域文化学部	新聞・TVだけではわからない現在の日中関係	2014年８月５日
第８回	中野　民夫	政策学部	みんなの楽しい修行 ～より納得できる人生と社会のための10のこと～	2014年10月28日
第９回	西村　卓	経済学部	京都の持つ重層性 ー伝統職人のまち、学生のまちー	2014年12月１日
第10回	Colin　Davis	国際教育インスティテュート	元留学生からみた日本の14年	2015年１月29日
第11回	津村　宏臣	文化情報学部	世界遺産ができるまで ー記憶と記録ー	2015年４月24日
第12回	藤澤　義彦	スポーツ健康科学部	スポーツと大学から世界をみる	2015年５月29日
第13回	米井　嘉一	生命医科学部	アンチエイジングと学生生活	2015年７月７日
第14回	Bettina Gildenhard	グローバル・コミュニケーション学部	多文化社会における教育ー相互理解をどのように促進するか？ー	2015年11月４日
第15回	武藤　崇	心理学部	行動科学から考えるダイエット	2015年12月７日
第16回	近藤　誠一	経済学部客員教授	民主主義は正しく機能しているかーテロ多発の意味を考えるー	2016年１月15日

良心館ラーニング・コモンズの情報は、以下のURLよりご参照ください。

良心館ラーニング・コモンズHP　http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/

※学習支援・教育開発センター HP（http://clf.doshisha.ac.jp/）からでもアクセス可能です。

各学部・研究科・センターFD活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるFD活動の報告を順次掲載していきます。

法学部　鈴木 絢女

法学部では、多様化する学生のニーズや卒業後の進路にかんがみて、カリキュラムの点検や独自の教育プログラムの提供を積極的に行っている。専門領域ごとに行われるきめ細やかな第三者評価、法職講座や現役社会人を講師とした講演会をはじめとするキャリア教育、体験的学習や討論を取り入れた授業運営に関する教員同士の活発な情報交換などを通じて、次世代のリーダーの育成をめざしている。

第三者評価制度については2002年度より導入し、毎年実施している。評価委員会は、第三者総合評価委員会と専門評価委員会の２つからなり、総合評価委員会は法学部の基本理念やカリキュラムなどの教育・研究の現状に対して総合的な評価を受け、専門評価委員会は各専門分野における具体的な授業内容やその方法等の学習指導と研究活動等についてそれぞれの専門分野の知見に基づき研究者からの評価を受けている。委員会で受けた評価は、カリキュラム改革をはじめとする教育内容の充実に役立てている。

免許資格課程センター　佐藤　翔

免許資格課程センターは2015年度４月より、教職課程教育を担当する教員３名、図書館司書課程を担当する教員２名を加え、京都連合教職大学院への出講を主に担当する１名を含め６名の教員組織を立ち上げた。

実質的に今年度が発足初年度と言えるが、教員組織を立ち上げたことにより免許資格関連科目のFDにもこれまで以上に力を入れることができている。今年度から所属教員間で、教育実習や介護等体験の事前指導の相互見学を開始し、指導時の発話・進行方法等、互いの教授法について学び合う機会としている。事前指導にとどまらず授業の相互見学も一部で開始しており、今後は制度化することを検討している。

また、図書館司書課程では以前より学生の図書館実習期間中に、実習先図書館を教員が訪問・見学していたが、今年度からは教職課程における介護等体験においても、特に体験学生の多い学校・施設を中心に、所属教員による体験先訪問を開始した。この訪問により体験先の学校・施設からフィードバックを得ることができ、今後の指導法等に反映することを試みている。

全学共通教養教育センター　川口　章

全学共通教養教育センターでは、『履修要項』などにおいて「全学共通教養教育科目の目的」、「履修モデル」、「履修の原則」を示している。これらは、学生による科目選択が、学生の志向や単位修得の容易さに左右され、学びが狭く偏ったり、散漫になることを避けるためである。そして、これを学生だけでなく、嘱託講師を含む全教職員の間で共有するため、2014年に『全学共通教養教育センター Report』を発行した。

2014年度から始まった英語の習熟度別クラス編成では、CEFRに基づく統一成績評価基準、指導要領、サンプルシラバスを定めており、教科書はリストから選択することとした。これは、専任教員が嘱託講師をコーディネートしながら、クラス間で大きなバラつきなく授業を運営する方法として設計したものである。実際の授業運営も、習熟度別外国語教育検討部会で、成績評価、学生アンケート、CASECの結果などにより、点検を行っている。結果は英語教員にフィードバックされ、授業運営に活かされるとともに、教務主任会議で報告されている。「Intensive Courses for TOEFL」もほぼ同様のかたちで実施しており、これらは１つの科目に多数のクラスがある全学共通教養教育科目の運営方法を示すものと言える。

次年度、グローバル・リベラルアーツ副専攻が設置されるが、習熟度別クラス編成等で培った経験を副専攻英語開講科目の運営に活かしていくことが、これからの課題である。

各学部・研究科・センターFD活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでのFDに関する組織的な取組に対し、年間一律30万円をFD活動費として配分しています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

FD活動費（FD支援費）の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- FD講演会・セミナー等開催関連費用
- 授業評価における専門的知識の提供に関する費用（講師謝礼）　等
- FD合宿関連費用
- FD関連書籍購入費用

留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研修会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出る。
- 会合費*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする（学外講師の会合費は補助可）。

＊ 会合費について　・研修会開催等の会議費用（昼夜を問わない）及び昼食時における学外講師との懇談費用の場合は１人あたり単価1,200円（税別）までとする。また、夕食時における学外講師との懇談費用等の場合は１人あたり単価3,000円（税別）までとする。
・会合費にアルコールは含まない（会合費としての補助は不可）。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。
※今後開催予定のFD関連企画はP.10でも紹介しています。

教育革新シンポジウム

テーマ　これからの時代における教育者の役割
開催日　2015年10月23日（金）
主　催　東京工業大学教育革新センター

商学部　田口 聡志 教授

去る2015年10月23日（金）、東工大大岡山キャンパスにて開催されたFDセミナーに参加した。東工大は、平成28年４月から学部と大学院を統合する「学院」制度を導入し学部学科等を大きく再編している最中であり、それに伴いカリキュラムの全面的見直しを図っている。本セミナーでは、その旗手となる「教育革新センター」の取組みについて、大きく３部構成で議論が進んだ。第１部は、海外との比較（海外の大学のFD関係者の講演）、第２部は東工大の取り組みの紹介、第３部は外部有識者を交えてのワークショップである。

第１部では、海外の大学が多くの人的・金銭的資源を投入してFDに取り組んでいることが示された。続く第２･３部では、東工大はそのような莫大な人的・金銭的資源はないものの、大きく以下の２つの工夫をしている点が示された。

第１の工夫は、学生同士の教え合いを重視していること（ピアチュータリング）である。特に東工大は大学院生の数が多いため、院生が学部生を教える仕組みを構築している。具体的には院生科目「リーダシップ道場」を新たに立ち上げ、学部１年の教養科目（有名講師池上先生らが担当）と接続することで、いわば「TAの単位化」を図ることで人的資源不足を補っている。また、通常の講義でも、小テストの点数が高かった学生に、次の講義の最初で「先生役」をしてもらい解説をさせるなど積極的に教え合いの機会を設けている。

また第２の工夫は、webコンテンツを重視した事前学習を促していることである。特に「現代版ものづくり」をスローガンに掲げ、学生をコンテンツ作りに大きく巻き込むことで、その中で学ばせるというアクティブな学習機会を構築するとともに、人的・金銭的資源の不足を補っている。いずれも、同志社でも取り入れることができそうな方策であり、とても有意義な機会となった。

2015年度課題研究集会

テーマ　「『連携』から広がる新たな時代の大学教育」
開催日　2015年11月28日（土）～29日（日）
主　催　大学教育学会

スポーツ健康科学部　柳田 昌彦 教授

今年度の大学教育学会では、「多様な連携による大学教育の質向上の可能性」というテーマでシンポジウムが開催された。大学の入口から出口まで時系列に沿った話題が４つ提供された。（１）岩手大学における「高大連携と地域連携」（主な内容：岩手県教育委員会と県内５大学との連携協定に基づき、「ウインターセッション」と称して年末の３日間、県内各地から参加する高校生が宿泊しながら希望を出した大学の公開講座を受講する高大連携事業）、（２）北海道大学における「北海道地区国立大学における教養教育連携」（主な内容：道内７国立大学の教養教育の単位互換を遠隔授業システムによって実施）、（３）山形大学における「大学間連携と地域連携」（主な内容：「つばさプロジェクト」と称して東日本の19の連携大学と14の連携機関（自治体）との大地連携ワークショップの実施）、（４）龍谷大学における「産学連携による就職支援」（主な内容：インターンシップを通した地元企業と大学との産学連携事業）。

大学教育における「連携」には多種多様な形態がある。単なる共学・共修から始まり、情報共有あるいは能動的学修を他学部や他大学、地域と行う等、その内容も千差万別だが、共通するのは「普段と異なる交流」であろう。連携によって、学生は普段と異なる人・場・空間と触れ合うことになる。それは、新しい刺激であり、自らの隠れた能力を引き出す契機となる。また、大学間のコンソーシアム事業あるいは産学・大地連携教育では、他大学・他職種への尊敬の念を持つとともに、自大学・自学部の使命を振り返ることで自己肯定することができる。そして、連携による相乗効果は、学生のみならず大学全体の活性化をもたらす。今回の学会に参加して、大学の質の向上には、多方面での連携が重要な鍵を握っていることに気づかされた。

2016年度　教育方法・教材開発費 採択テーマ

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を対象とする補助を行う「教育方法・教材開発費制度」を設置しています。

2016年度は、この制度を利用してA区分２件、B区分２件の取組が行われます。

開発テーマ	所　属	申　請　者
A区分（１件あたり税込50万円以下）		
同志社大学所蔵古典籍を用いた 変体仮名・くずし字の読解力習得のための教材開発	文化情報学部	深川 大路 福田 智子
留学生のための日本のビジネスマナーとその背景理解の ための教材開発：印刷、ビデオ化、実技検定システムの構築	ビジネス研究科 グローバル・ コミュニケーション学部	飯塚 まり 竹田 宗継
B区分（１件あたり税込200万円以下）		
英語科学技術論文執筆のためのビデオ教材の開発	理工学部 ハリス理化学研究所	林田 明／土屋 隆生 相澤 バリタ／Philip Tromovitch
学生のメッセージに対応して適切なコメント候補を 自動生成するシステムの構築	免許資格課程センター	井上 智義／原田 隆史／大橋 忠司／ 児玉 祥一／中瀬 浩一／佐藤　翔

※これまでの採択テーマ及び成果報告書（本学教職員のみ閲覧可）は
学習支援・教育開発センターホームページ上に掲載していますので、以下のURLよりご参照ください。

教育方法・教材開発費制度のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html

※教育方法・教材開発費制度を利用して開発された教材の一部は、本学オープンコースウェア上で公開しています。

同志社大学オープンコースウェア　http://opencourse.doshisha.ac.jp/

FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務室までお知らせください（本学専任教職員を対象とします）。

今後、学外で開催される企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究会・研修会のご案内ページ　http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html

開催日程	企画名称	会　場
6月11日(土)・12日(日)	大学教育学会　第38回大会	立命館大学 大阪いばらきキャンパス
6月17日(金)・18日(土)	New Education Expo 2016（大阪）	大阪マーチャンダイズ・ マート（OMM）
6月25日(土)・26日(日)	日本高等教育学会　第19回大会	追手門学院大学 茨木キャンパス
8月23日(火)・24日(水)・25日(木)	日本リメディアル教育学会　第12回全国大会	大阪国際大学 守口キャンパス
9月10日(土)・11日(日)	初年次教育学会　第９回全国大会	四国大学

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。
※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

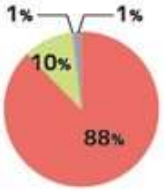
2015年度「大学入学準備講座」開催報告

2005年度より高校生向けに開講している「大学入学準備講座」(大学における必要な学力レベルを教えるための特設授業を提供することで、高校生に正しい学部選択の機会を与えることを目的としている講座)は、今年度も全学部14講座を開講し、45校の高等学校より延べ1,025名の高校生および同伴の保護者の方等(高校生1,005名、保護者等20名)に参加いただきました。

高校の授業との違いに戸惑いながらも、先生からの質問に一生懸命自分の言葉で答えたり、講義終了後に先生に質問に行ったりと、高校生が自ら学ぼうと授業に参加している姿が見られ、大学での授業を体験する良い機会となったようです。

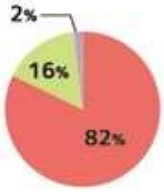
アンケート結果

授業のレベルはどうか？



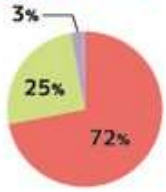
- ちょうど良かった
- 高すぎた
- 低すぎた
- 無回答

講師の話し方はどうか？



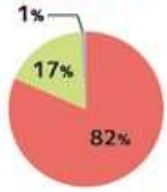
- わかりやすかった
- どちらとも言えない
- わかりにくかった

高校における勉強の刺激になったか？



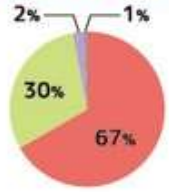
- 刺激になった
- どちらとも言えない
- 刺激にはならなかった

学部を選択する際の参考になったか？



- 参考になった
- どちらとも言えない
- 参考にならなかった

同志社大学の講義を受けたいと思ったか？



- 思った
- どちらとも言えない
- 思わなかった
- 無回答

受講者の声

高校生

- 普段の授業時間の2倍あるとは思えないほど、あっというまで、とってもおもしろかったです！
- わからない事ばかりで、いきなりついていけなくなったらどうしようと心配していたのですが、難しいところはわかりやすく説明をして下さったので、大変有意義な時間をすごすことができました。今の成績では厳しい学部ですが、今から必死に勉強して絶対にこの学部で学びたいと思いました。
- 授業はとても難しかったが、それと同時に大学のレベルについて良く分かったので、この講座はとても良い経験だったと思う。
- 「大学の授業」というものを、直に感じられて良かった。少し難しい話もあったけれど、今まさに解明を推し進めている研究について知るのは面白かった。
- 今まで受けてきた授業では教えてくれないような専門的なことを教えてくださるので、とても面白いと思った。
- 大学を選ぶことについて、いい経験になった。自分の学びたいことを見つけて、自分にあった大学に行きたいと思った。

保護者

- 大変興味深い講義でした。ありがとうございました。
- 娘と一緒に大変楽しく受講させていただきました。私自身、現在ネイティブの先生から英語を勉強しており、常日頃から娘にも外国語の必要性を言い続けています。今日はさらにこちらの大学に入学し、グローバルに活躍する人材になって欲しいと思いました。
- 娘がこの度、同志社大学を受験させて頂きます。私も一緒に今回講座を受けさせて頂き、うらやましく思いました。身体で習得できるところがやはり同志社大学の一番の魅力だと感じております。是非、娘にガンバって貰いたいです。本日はありがとうございました。

講義風景

講義を集約した講義録を発行しています。

動画コンテンツが視聴できます。

学部毎に、講座タイトル・開講年度・公開中の動画コンテンツがひと目で分かるよう、「大学入学準備講座過年度一覧リーフレット」を作成しました。
(＊動画閲覧に必要なID・パスワードは学習支援・教育開発センターにお問合せください)

2016年度も「大学入学準備講座」の開講を予定しています。詳細については、決定し次第本センターホームページよりご案内します。

大学入学準備講座のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

センター事務室からのお知らせ

新任教員研修会／TA研修会開催のお知らせ

学習支援・教育開発センターでは、2016年度の新任教員向けおよびTA向けの研修会を開催します。

対象者以外でも、本学教職員であれば参加可能ですので、ご希望の場合は学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。また、研修会の内容は、後日ホームページでも公開予定ですので、あわせてご覧ください。

新任教員研修会

日時 4月2日(土)13：00～16：25

会場 今出川キャンパス：寧静館5階会議室
京田辺キャンパス：成心館2階207会議室
（TV会議システム利用）

内容
- ガヴァナンス、意思決定の仕組み
- グローバル化の取組
- 研究活動
- 教育活動
- 入学試験業務
- 学生支援体制
- 教育・研究倫理

TA研修会

日時 4月4日(月)12：00～12：45
4月6日(水)12：00～12：45　※理系TA特化型
4月7日(木)18：30～19：15

会場 今出川キャンパス：良心館ラーニング・コモンズ
京田辺キャンパス：知真館1号館232教室(4/4)
恵道館201番教室(4/6、7)
（TV会議システム利用）

内容
- TA制度、TAの心得
- TAの事務手続き

※2016年度より受講者全員に「TA研修会受講証明書」を試行的に発行いたします。
TAの研修会参加確認の目安にしていただくなど、ご自由にご活用ください。

※各研修会の詳細については、本センターのホームページをご参照ください。

お知らせのページ　http://clf.doshisha.ac.jp/information/information.html

BOOKS　新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧いただき、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

授業に生かすマインドマップ
アクティブラーニングを深めるパワフルツール
関田一彦（著）山崎めぐみ（著）上田誠司（著）
ナカニシヤ出版
2016. 1
ISBN：978-4-7795-1018-2

シリーズ大学の教授法
アクティブラーニング
中井俊樹（編著）
玉川大学出版部
2015. 12
ISBN：978-4-4724-0533-4

もっと知りたい大学教員の仕事
羽田貴史（編著）
ナカニシヤ出版
2015. 12
ISBN：978-4-7795-1004-5

＊センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。
また、図書の他にも、FDに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。下記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

図書資料のご案内ページ　http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html

Column 大学教育の今「内部質保証の構築に向けた3つのポリシー」

第40回中央教育審議会大学分科会大学教育部会で、「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」の3つのポリシーの策定と運用に係るガイドライン（骨子の素案）が配布されました。3つのポリシーについては過去の中教審の答申においてもその重要性が指摘されていますが、今回は、法令改正を見据えて、「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」及び「アドミッション・ポリシー」という3つのポリシーを一体的で整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係をわかりやすく示すことが求められています。同志社大学も、過去それぞれの学科、学部、センター、大学院等で3つのポリシーを定めてきていますが、大学として一体的に策定することが今までのポリシー策定との差異といえるでしょう。ガイドラインでは、各大学は、それぞれの教育理念を踏まえ、3つのポリシーを一貫した理念の下に策定し、それらに基づく体系的で組織的な大学教育を、不断の改善に取り組みつつ実施することにより、学生の学修成果を向上させ、学位授与にふさわしい人材を育成し、社会へと送り出すことが必要という認識が示されています。ガイドラインによって示されているポリシーの一体的な策定からは、従来以上に大学にとって内部質保証の構築が確実に求められていることがわかります。

学習支援・教育開発センター所長　山田 礼子

CLF REPORT
Center for Learning support and Faculty development report

「シーエルエフ レポート Vol.24」
同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2016年3月30日
発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター
京都市上京区今出川通烏丸東入　明徳館1F
Tel. 075-251-3277　Fax. 075-251-3025
E-mail. ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp
http://clf.doshisha.ac.jp/